

中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	5単位・(書写1単位)
年間目標	国語力の向上
使用教科書	『新しい国語 1』『中学書写 1』
使用補助教材	『中学必修テキスト 1年』文理 『よくわかる中学国文法』吉野教育図書 『改訂版 級別 常用漢字マスター』文理

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	「風の五線譜」高階紀一 『詩の心—発見の喜び』嶋岡晨 『話し方はどうかな』川上裕之 『飛べかもめ』杉みき子 文法: 文法とは、言葉の単位、文の成分	詩の形式の理解・読解 説明文の読解 文、文節、単語 主語・述語	詩の形式を理解する。 詩の読解を習得する。 接続詞や指示語に注意して、説明文の読解を習得する。 文法事項を習得する
		書写: 書写の学習、楷書	鉛筆の持ち方や姿勢、基本点画 楷書の基本点画、筆使い、筆順の習得	書写の基本を習得する。
	後 半	『オオカミを見る目』高槻成紀 『さんちき』吉橋道夫 『碑』松山善三 文法: 文の成分	説明文の読解 小説の読解 修飾語・接続後・独立語 並立の関係・補助の関係	接続詞や指示語に注意して、説明文の読解を習得する。 小説の読解を習得する。 文法事項を習得する。
		書写: 楷書、楷書と仮名	楷書の点画の変化、点画・部分・全体の分類 平仮名の筆づかい	楷書・平仮名の筆づかいを習得する。
2 学 期	前 半	『スズメバチは本当に減っているか』三上修 『古典の世界』 『伊曽保物語』 文法: 自立語と付属語・品詞分類表	説明文の読解 典の読解・古文の特徴・歴史的仮名遣い 品詞	説明文の読解を習得する。 文法事項を習得する。
		書写: 楷書と平仮名の調和、行書	楷書と仮名の調和 楷書と行書の違い	楷書と仮名の調和をはかる。 行書の特徴をつかむ。
	後 半	『竹取物語』 『ニュースの見方を考えよう』池上彰 文法: 用言の活用の種類と活用形	古典の読解・歴史的仮名遣い 説明文の読解 用言	古典の読解を習得する。 説明文の読解を習得する。 文法事項を習得する。
		書写: 行書	行書の点画の変化と筆脈、点画の連続、省略 など、行書の特徴	行書の特徴を習得する。
3 学 期	期	『矛盾』韓非子 『少年の日の思い出』ヘルマン・ヘッセ 文法: 名詞・代名詞	漢文のルール 小説の読解 説明文の読解 名詞・代名詞	古典の読解を習得する。 小説の読解を習得する。 文法事項を習得する。
		書写: 行書	行書の点画の変化と筆脈、点画の連続、省略 など、行書の特徴	これまでの学習を生かして、作品作りをする。

評価方法	1・2学期は、定期試験の「国語」の得点×0.8+書写20点分、 3学期は、定期試験の「国語」の得点×0.9+書写10点分 を基本として、本校評価法に基づいて評価します。
------	--

学習方法	本文をよく読み、意味が分からない語句や難解な表現は事前に調べたり考えたりしてノートに書き留め、授業に集中してそれらが正しかったのか確認すること。また、漢字の小テストで確実に得点して、漢字検定の合格につなげましょう。その積み重ねの上に語彙力、読解力の向上が見えてきます。古文漢文の知識も少しずつ修得していきましょう。
------	---

注意事項	予習復習(家庭学習)の習慣づけ、授業をしっかり受けることが大切です。
------	------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	『中学必修テキスト 1年』の該当単元
-------------------------------	--------------------

中学1年生 地理 年間指導計画表

教科目(単位数)	地理(2単位)
年間目標	世界の自然環境および生活・文化、産業の地域的特色について理解させるとともに、その調査のための基礎的な技能を身につけさせる。
使用教科書	帝国書院 『中学生の地理—世界のすがたと日本の国土—』、『中学社会科地図』
使用補助教材	東京法令出版株式会社(とうほう)『中学 白地図(世界)』 育伸社 『iワーク地理 I』(帝国書院版) 新学社『学習の達成 帝国書院版 世界』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第一部 第一章:世界の姿 (第二部 第一章:日本の姿)	・六大陸と三大洋、六大州／世界の主な国 ・緯度と経度 (・世界の中での日本の位置) (・時差でとらえる日本の位置) ・地球儀と世界地図の違い ・世界の略地図	・世界の大陸・大洋・州および日本をはじめとする国々の位置や簡単な特色を把握させる。 ・地図帳の利用方法を身につけさせる。 ・緯度・経度を使い、目標を探することができるようにし、また時差の計算ができるようにする。 ・地球儀と世界地図の長短を理解させる。
	後 半	第二章:世界各地の人々の生活と環境	・暑い地域と寒い地域の生活 ・乾燥した地域や高地での生活 ・世界の住居・衣服・食文化とその変化 ・世界の宗教と生活との関わり	・自然環境が生活・文化に与える影響を、具体例を示しながら理解させる。 ・世界の宗教とそれに関連する人々の生活の特色を理解させる。
2 学 期	前 半	第三章:世界の諸地域 1. アジア州	・アジアの範囲と文化、人口 ・アジアの農業と工業 ・身近なものからみたアジア	・アジアの地域的特色を、自然、生活・文化、人口、産業などの側面を通して理解させる ・アジア諸国と日本のつながりを理解させる。
	後 半	2. ヨーロッパ州	・ヨーロッパの自然環境および歴史・文化 ・ヨーロッパの産業 ・国境を自由にこえるくらし	・ヨーロッパの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。 ・ヨーロッパの統合が生活に与えた影響を理解させる。
3 学 期	前 半	3. アフリカ州	・アフリカの自然環境および歴史・文化	・アフリカの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。その際、植民地支配が与えた影響について注目させる。
	後 半	4. オセアニア州	・オセアニアの自然環境と産業 ・移民と多文化社会	・オセアニアの地域的特色を、自然と産業の関わりを通して理解させる。 ・オセアニアの社会の現状について理解させる
3 学 期	前 半	5. 北アメリカ州	・北アメリカの自然環境および民族 ・北アメリカの生活・文化と世界への影響 ・世界をリードする大規模な産業	・北アメリカの地域的特色を、自然、生活・文化、民族、産業などを通して理解させる。 アメリカ合衆国が世界に与える影響の大きさについて理解させる
	後 半	6. 南アメリカ州	・南アメリカの自然環境および歴史・文化 ・南アメリカの農業と工業の変化 ・ブラジルにみる環境問題と対策	・南アメリカの地域的特色を自然、生活・文化、産業を通して理解させる。また植民地支配の影響と環境問題に注目させる。

評価方法	定期試験の得点と課題提出状況や授業態度等を考慮した平常点を加味して評価する。
------	--

学習方法	①事前に教科書を読み、内容を把握して授業にのぞむこと ②板書したことなどはノートに書き留め、「書いて覚える」ようにすること。また教科書の重要と思われる部分に下線を引いておくこともよい。 ③問題演習やノートを見返すなど、反復して学習を行うこと。
------	---

注意事項	・ノートや試験の答案には丁寧な文字で記入するように指導する。 ・第二部の第一章の一部は1学期前半に、第一部の第四章は夏季休業中の課題(レポート)として取り扱う。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	『iワーク』の問題に取り組み、学習内容の予習・復習を行なう
-----------------------	-------------------------------

中学1年生 歴史 年間指導計画表

教科目(単位数)	歴史(2単位)
年間目標	中学社会の一環として歴史を位置づけ、歴史を単なる昔物語に終わらせないようにする。そのため、つねに現代社会に生きる私たちの視点を意識するよう努める。
使用教科書	清水書院『新中学校 歴史 日本の歴史と世界』
使用補助教材	文理『中学Win Pass 社会 歴史』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 原始・古代の日本と世界 第1節 文明のおこりと日本のはじまり	ヒトがあらわれるまで 定住して生きる人びと 大河が生んだ文明 地中海が育てた文明 東アジアで生まれた文明 日本列島の文化	文明がおこった地域の共通点を理解させる。その際、小学校で学ぶことのなかった「世界」にも関心を広げさせ、とくに日本の歴史には東アジアの影響が大きく働いていることに注目させる。
	後 半	第2節 律令国家の成立 第3節 貴族の政治と武士の登場	東アジアのなかの日本 古墳文化とヤマト王権の統一 唐・隋王朝とイスラーム帝国 聖徳太子の政治と飛鳥文化 律令国家をめざして 平城京の建設と仏教 律令制下の農民のくらし 大陸の影響をうけた文化 平安京へ都を移す 都の政治と地方の動き	日本の国土統一、律令体制の成立とその後の発展のようすを朝鮮半島、中国の動きと関連させて理解させる。奈良時代・平安時代の文化の違いを仏教理解の変化に注目させつつ理解させる。
2 学 期	前 半	第2章 中世の日本と世界 第1節 武士の政権と東アジアのうごき 第2節 武家社会の展開と民衆	武士の台頭と院政 国風文化 宋王朝とモンゴル帝国 平氏政権と日宋貿易 鎌倉幕府の成立と執権政治 武士と農民の生活 新しい仏教と鎌倉文化 元寇と鎌倉幕府の滅亡 建武の新政と室町幕府 東アジア世界とのかかり	武士の登場から鎌倉幕府の成立とその崩壊までの過程を、武士社会固有の特徴とからめて理解させる。鎌倉文化の特色と鎌倉新仏教の誕生について、貴族文化との相違に注目させながら理解させる。
	後 半	第3章 近世の日本と世界 第1節 ヨーロッパの拡大とアジアの交易 第2節 戦国大名と全国統一	農村の自治と人びとの団結 産業の発達 応仁・文明の乱と社会の変動 室町時代の文化 ヨーロッパ世界の形成 航路開拓とヨーロッパの拡大 アジアの交易 戦国大名の登場 鉄砲とキリスト教の伝来 全国の統一 秀吉の政策 南蛮文化と桃山文化	南北朝動乱の間に農民が大きく成長したことをおさえる。同時に守護が成長し、やがて将軍の後継者争いから応仁の乱へ、さらに戦乱の時代に移る過程を理解させる。ヨーロッパ世界との出会いが戦国時代の日本に与えた影響を指摘し、室町文化と桃山文化の相違に注目させる。
3 学 期		第3節 江戸幕府の成立と進展	江戸幕府の成立と大名統制 身分制度の確立と農村のようす 貿易奨励から鎖国へ 外国や周辺地域との関係	江戸幕府の成立と幕藩体制の確立の過程を、国内支配と外交政策の両面に注目しつつ、理解させる。

評価方法	定期試験を中心に、課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。
------	---

学習方法	中学社会を学ぶスタートとなる学年です。基本的な学習習慣を身につけることが大切です。あらかじめ学習する箇所を教科書で予習してください。ていねいに読んで、わからないところに印をつけます。そのうえで授業を受けてください。かならずノートを用意し、板書を中心に大事と思われることがらを書いて、あとで復習します。
------	--

注意事項	授業の受け方、定期試験というテストのあり方など、わからない人も多いかと思います。担当者がそのつど説明します。
------	--

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	補助教材『中学 Win Pass 社会 歴史』をつかって、自宅学習をします。学習する箇所は、そのとき担当者から連絡します。
-------------------------------	---

中学校1年 年間授業指導計画表

教科目 数学α 週3時間

教科書: 数研出版『体系数学1(代数編)』
啓林館『未来へひろがる数学1』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
第一学期	前半	第1章 正の数と負の数	1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 四則の混じった計算	数の範囲を負の範囲まで拡張し、負の数の意味を理解する。 また、正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算に習熟し、数についての処理が手際よく出来るようにする。
	後半	第2章 式の計算	1 文字式 2 多項式の計算 3 単項式の乗法と除法 4 文字式の利用	文字を使って、数量や数量の関係・法則を式に表したり、式の意味を読みとったり、式の値を求めたりして、文字を用いることの意義を理解する。文字を用いた式に関するいろいろな用語の意味を理解し、正しく使えるようにする。 単項式と多項式の四則について理解し、その計算に習熟する。
第二学期	前半	第3章 方程式	1 方程式とその解 2 1次方程式の解き方 3 1次方程式の利用	方程式とその解の意味を理解する。等式の性質を見だし、それを利用して式を変形することで方程式が解けることを知る。 一元一次方程式の解法を理解し、その解法に習熟し、方程式を問題解決に利用することができるようにする。
	後半	第3章 方程式 第6章 資料の整理と活用	4 連立方程式 5 連立方程式の利用 1 資料の整理 2 代表値とちらばり 3 近似値と誤差	数量の関係を2つの文字を用いて等式に表しこの等式から文字の値が求められることを知る。 連立方程式の解法を理解し、その解法に習熟し、連立方程式を問題解決に利用することができるようにする。 資料を適切に整理し、分布や傾向を読み取るなど活用する方法について学ぶ。章末では近似値、誤差、有効数字なども扱う。
第三学期		第5章 1次関数	1 変化と関数 2 比例とそのグラフ 3 反比例とそのグラフ 4 比例、反比例の利用	いろいろな事象の中にもなまって変わる数量があることに注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して比例や反比例に対する理解を深め、それを利用できるようにする。 表、式、グラフなどで表現することを通して、比例や反比例の特徴を理解する。

補助教材: 数研出版「体系問題集数学1(代数編)標準」
「夏季課題問題集」 「冬季課題問題集」 「春季課題問題集」

学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる 2. 要点をノートにまとめる 3. 例や例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 実際に問を解いて、理解を深める 5. 問題集を使って、繰り返し練習する
------	---

中学校1年 年間授業指導計画表

教科目 数学B 週2時間

教科書: 数研出版『体系数学1(幾何編)』
啓林館『未来へひろがる数学1』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
第一学期	前半	第1章 平面図形	1 平面図形の基礎 2 対称な図形 3 図形の移動 4 作図	いろいろな図をかくことを通して、語句の意味や表し方を理解するとともに、平面図形に対する見方を深め、基礎的な知識・技能を習得して、それらを活用する能力をのばす。
	後半	第1章 平面図形 第2章 空間図形	5 面積と長さ 1 いろいろな立体 2 空間における平面と直線 3 立体のいろいろな見方	空間図形についての観察、操作や実験などを通して、空間図形に対する見方や空間図形の性質についての理解を深め、それらを活用する能力をのばす。
第二学期	前半	第2章 空間図形 第3章 図形と合同	4 立体の表面積と体積 1 平行線と角	図形の性質を調べる上で、基礎となる見方・考え方や基本的な性質を明らかにし、論証の意義と推論の進め方について理解する。 平行線についての性質や三角形の合同条件を用いて証明することの意義と仕組みについて理解する。
	後半		2 多角形の内角と外角 3 三角形の合同条件 4 証明のすすめ方	
第三学期		総復習 第4章 三角形と四角形	1 二等辺三角形 2 直角三角形の合同 3 三角形の辺と角の大小	三角形の合同条件を根拠にして、三角形の性質を調べ、それらを活用することができるようにする。

補助教材: 数研出版「体系問題集数学1(幾何編)標準」
「夏季課題問題集」 「冬季課題問題集」 「春季課題問題集」

学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる 2. 要点をノートにまとめる 3. 例や例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 実際に問を解いて、理解を深める 5. 問題集を使って、繰り返し練習する
------	---

中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	理科 I (2単位)
年間目標	自然の事物・現象に進んでかかわり、これらの理解を深めると共に科学的に探求する能力の基礎と態度を育てる。
使用教科書	東京書籍 『新編 新しい科学 1年』
使用補助教材	『実力練成問題集 理科 1年 2017』 正進社 『新理科表デラックス』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	2 身のまわりの物質 1章 身のまわりの物質とその性質	1. 物の調べ方 2. 金属と非金属 3. さまざまな金属の見分け方 4. 白い粉末の見分け方 5. プラスチック	身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ、固有の性質と共通の性質があることを見いださせる。また、実験器具の操作や記録・分析の仕方等を身に付けさせる。
	後 半	2章 気体の性質 3章 水溶液の性質 4章 物質の姿と水溶液の性質	1. 身のまわりの気体の性質 2. 気体の性質と集め方 1. 物質が水にとけるようす 2. 溶解度と再結晶 1. 物質の状態変化 2. 物質の状態変化と体積・質量の変化	それぞれの性質を調べる実験を通して実験技能を身に付けさせる。また、物質の状態変化について日常生活と関連づけて理解し、物質に対する見方や考え方を養う。
2 学 期	前 半	3 身のまわりの現象 1章 光の世界	3. 状態変化起こるときの温度 4. 蒸留 1. 物の見え方 2. 光の反射 3. 光の屈折	光や音の規則性や性質を観察・実験を通して理解するとともに、これらの事物・現象を日常生活や社会と関連づけて科学的な見方や考え方を養う。
	後 半	1章 光の世界 2章 音の世界 3章 力の世界	4. レンズのはたらき 1. 音の伝わり方 2. 音の大きさと高さ 1. 日常生活のなかの力 2. 力のはかり方と表し方	
3 学 期			3. 圧力 4. 水中ではたらく力 5. 大気による圧力	実験を通して水圧や大気圧は、水や空気の重さとそれが受ける面積に関係することを理解させる。

評価方法	一次・二次試験の点数が基本である。普段の授業時の発言(発問に対する解答など)によって平常点を考慮し、本校評価法に合わせて評価する。 また、著しくやる気の見られない態度や、授業妨害につながる態度をする者は、注意を促すとともに平常点を下げる対応をする。
------	---

学習方法	ワークシート・問題集による授業を展開する。板書を写すだけになりがちな展開を省くことで、聴くことに集中でき、思考する機会を増やすことができるというねらい。 演習のプリントを問題集とは別に用意し、宿題という形で定着を図る。
------	--

注意事項	『プリントがあるから、それさえ埋めていれば大丈夫』と思わせないように授業を展開する。 週2単位であるため、適宜復習を促し、前回の確認などを踏まえながら授業を展開していく。
------	--

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	問題集の該当ページを予習させ、解いておさせる。
-----------------------	-------------------------

中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	理科Ⅱ(2単位)
年間目標	自然科学についての知識を得ることの意味を理解し、興味を持って積極的に生物・地学を学べるようになること。
使用教科書	東京書籍『新編 新しい科学 1年』
使用補助教材	『実力練成問題集 理科 1年 2017』 正進社『新理科表デラックス』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	身近な生物を観察しよう 1 植物の世界 1章 花のつくりとはたらき 2章 葉、茎、根のつくりとはたらき	身近な生物の観察 1. 花のつくりとはたらき 2. マツの花と種子 1. 葉のつくり	身近な植物などについての観察、実験を通して、実験器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身につけ、生物の調べ方の基礎を習得する。 花の観察を行い、花のつくりの基本的な特徴を見つけ、花の働きと関連付けてとらえること。
	後 半	2章 葉、茎、根のつくりとはたらき 3章 植物の分類	2. 葉のはたらき 3. 植物と水 1. 種子をつくる植物の分類 2. 種子をつくらぬ植物	植物の葉、茎、根のつくりの観察や光合成、呼吸、蒸散に関する実験、観察にもとづいて、植物の特徴と関連付けてとらえる。 植物の体のつくりの特徴にもとづいて、分類でき、種類を知る方法を身につける。
2 学 期	前 半	2 大地の変化 1章 火をふく大地	1. 火山の形 2. 火山が生み出すもの 3. 火山活動と岩石 4. 火山灰の広がりから考える	火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらをマグマの性質と関連付けてとらえる。 火成岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえる。
	後 半	2章 動き続ける大地	1. 地震のゆれの伝わり方 2. 地震のゆれの大きさ 3. 地震と災害 4. 地震が起こるしくみ	地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気づくこと。 地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。
3 学 期		3章 大地の変化を読みとる	1. 地層のでき方 2. 地層や化石からわかること 3. 堆積岩 4. 大地の変動 5. 大地の歴史	地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見出す。 地層とその中の化石を手がかりとして、過去の環境と地質時代を推定することができる。

評価方法	1 定期試験の成績 2 提出物(問題集・授業用ノート・実験レポート)、学習態度(発表回数)等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	--

学習方法	授業内容の定着を達成するために、問題集(基礎的な問題を中心に)で定着をはかる。 昨年度の学習内容の定着させるために、課題や小テストを実施し、定期テストに備える。 定期テスト対策として、基礎基本問題の解法だけでなく、考察問題の解法も講義する。
------	--

注意事項	授業を休まないこと。授業を真剣に受けること。授業に積極的に参加すること。問題を何度も解き直すこと。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	問題集を扱います。
-----------------------	-----------

平成29年度 中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	週2時間
年間目標	基礎的な技術や知識を身に付ける。また、世界の多様な音楽に触れ、見識を広げることで、生涯に渡って音楽を愛好する礎を築く。合唱祭に向けて、歌唱表現を高める。
使用教科書	使用教科書:「中学の音楽1」、「中学の器楽」教育芸術社
使用補助教材	アルトリコーダー

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	○歌唱 校歌 ○器楽 アルトリコーダー ○鑑賞 春	○校歌の暗記、暗譜 ○基本的指使いの学習 ○ヴィヴァルディ作曲「春」の鑑賞	校歌を歌えるようにし、歌詞の内容を理解させる。 中音(C~G)と低音(G~H)までの幹音を演奏できるようにする。 楽曲の特徴と、作曲家について理解させる。
	後 半	○鑑賞 魔王 ○歌唱 教科書より数曲 ○楽典 基本的な楽譜の読み方	○シューベルト作曲「魔王」の鑑賞 ○教科書より数曲歌唱 ○基本的な楽譜の読み方の学習	楽曲の特徴と、作曲家について理解させる。 様々な曲に親しませる。 楽譜を正しく読む力を身に付けさせる。
2 学 期	前 半	○歌唱 赤とんぼ、教科書より数曲 ○合唱 マイバラード	○旋律の抑揚と歌詞の表現 ○混声合唱に親しむ	日本歌曲に親しみ、楽曲の美しさ、日本語の美しさを感じ取らせる。 合唱の響きを味わい、アンサンブルの楽しみを感じ取らせる。
	後 半	○鑑賞 モルダウ ○器楽 アルトリコーダー	○オーケストラの響きに親しむ ○基本的指使いの学習	楽曲の特徴と、作曲家について理解させる。 また、作曲された歴史的背景を学び、理解を深めさせる。 サミングの技術を身に付け、より広い音域で演奏ができるようにする。
3 学 期		○器楽 リコーダーアンサンブル ○鑑賞 諸外国の音楽 ○楽典 音楽の諸要素について ○歌唱 花の街、教科書より数曲	○器楽アンサンブルに親しむ ○日本及びアジア諸国の音楽に親しむ ○音楽の諸要素が聴く者に与える影響 ○旋律の抑揚と歌詞の表現	器楽アンサンブルの響きを味わい、アンサンブルの楽しみを感じ取らせる。 日本やアジア諸国の音楽に親しみ、音楽の多様性を感じ取らせる。 音楽を構成する要素について理解し、音楽の構成を理解させる。 日本歌曲に親しみ、楽曲の美しさ、日本語の美しさを感じ取らせる。

評価方法	実技試験(歌唱・器楽)、ノート検査を学期ごとに数回行い、採点する。
------	-----------------------------------

学習方法	・器楽、歌唱 楽譜を正しく読み、音として表現する。また、表現の工夫をし、自分なりの演奏をできるようにする。 ・鑑賞 楽曲の成り立ちや作曲家について理解する。また音楽を形作っている様々な要素を感じ取り、自分なりの感想を文章で表現できるようにする。
------	---

注意事項	特になし
------	------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	特になし
-----------------------	------

平成29年度・中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	2単位
年間目標	楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
使用教科書	光村図書『美術 I』 38光村 美術722
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	色の性質	絵の具の三原色 色彩の三要素	絵の具の混色法、着色の仕方の理解。色の類と性質の理解。正確な計量。筆使いの法
	後 半	鉛筆デッサン	幾何形体(六面体)	貝殻の特徴をとらえ、美しい形を見いだす。の感情の理解。形:単純化や強調、直線化、曲線化。色:寒暖・軽重のイメージ。
2 学 期	前 半	自然物からの構成	単純化による個性の強調、貝殻の特徴	明暗対比の美 木目の美 版画の歴史 彫刻刀の種類と使用法 人体のプロポーション 体の動き
	後 半	自然物からの構成	単純化による個性の強調、貝殻の特徴	明暗対比の美 木目の美 版画の歴史 彫刻刀の種類と使用法 人体のプロポーション 体の動き
3 学 期		レタリング	日本文字 和文体の種類 明朝体 ゴシック体	和文体の特徴 定規・コンパスの使用法。

評価方法	提出作品・制作態度
------	-----------

学習方法	参考作品を提示し理解度を高める。
------	------------------

注意事項	用具の使用法・丁寧な制作
------	--------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	レポート提出
-------------------------------	--------

中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	様々な運動を通して基礎的な体力の向上をはかるとともに運動をすることの喜びを感じ、安全性に配慮しながら仲間と協力することの大切さや、公正な態度を身に付け生涯を通して健康でスポーツのできる身体をつくる。
使用教科書	東京書籍『新しい体育実技』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		集団行動(男女) サッカー(男子) レクリエーションバレー(女子)	集団行動 姿勢 方向転換 集合 整列 列の増減 行進 ラジオ体操 体づくり運動	集団行動 スポーツをする際に必要となる集団行動の基本を身につける。体づくり運動を通して、簡単な筋トレやレクリエーションを行ない、基礎体力の向上、仲間との絆を深める。
			レクリエーションバレーボール バレーボール パス サーブなどの基本技術 簡易ゲーム サッカー パス ドリブル シュート 簡易ゲーム	レクリエーションバレーボール バレーボールの導入としてのレクバレーを楽しく行う。安全確保のためにも、集団が規律ある行動をとることが大切であることを認識する。 サッカー サッカーの基本的技術を身につける。
2 学 期		バレーボール(男子) バスケットボール(女子)	バスケットボール パス ドリブル シュートの基本技術	ルールやマナーを守り、責任を果たす態度を育てる。捻挫などの怪我をしないように準備運動を十分に行う。自分の能力以上の無理な動きやプレイをしないようにする。
			マット運動 前転・後転・補助つき倒立 開脚前転・開脚後転 伸膝後転・側転・連続技	バスケットボール 身体接触の可能性が高いため、捻挫、突き指などに注意し、服装、爪を整えるようにする。 十分な準備運動をし、ルールを守り、公正な態度で練習やゲームに臨むようにする。 マット運動 個人の技能を高め、技がよりよくできる。 互いに協力して練習ができる。
3 学 期		バスケットボール(男子) マット運動(女子)		器械、器具を点検し、安全に留意して、練習ができる。 自分の能力を知り、それを高める。 技を身に付けるための補助や用具を活用する。

評価方法	第1学期 集団行動、ラジオ体操、サッカー(ドリブル)／レクリエーションバレー(パス) 第2学期 バレーボール(パス・サーブ)／バスケットボール(パス・ドリブル・シュート) 第3学期 バスケットボール(パス・ドリブル・シュート)／マット運動(連続技)
------	--

学習方法	男女別で、AB・CD合同、E単独で実施する。
------	------------------------

注意事項	服装を整え(頭髪・つめ・学校指定の体育着を着用)、準備運動・補強運動をしっかりと行う。
------	---

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	様々な運動を通して基礎的な体力の向上をはかるとともに運動をすることの喜び楽しさを感じ、安全性に配慮しながら仲間と協力することの大切さや、公正な態度を身に付け生涯を通して健康でスポーツのできる身体をつくる。
使用教科書	東京書籍『新しい体育実技』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
		柔道	柔道の歴史と特性 礼法の理解 正座 座礼 立礼 柔道衣の取り扱い方 受け身 後受け身 前受け身 横受け身 前回り受け身 固め技の基本動作 袈裟固 横四方固 上四方固 崩四方固 肩固	柔道 柔道を良く理解する。 武道は礼にはじまり、礼に終わる。 受け身の必要性を知る。 受け身の安全性を良く知る。 抑え方のポイントを良くつかむ。 攻撃、防御の基本動作を身につける。
		剣道	剣道の歴史と特性 礼法 木刀の扱い方 構え(中段) 足さばき(送り足) 素振り(上下振り・空間打突) 掛け声と間合い 打突(面・小手・胴・突き) 打ち方と打たせ方	剣道 1) 剣道の歴史と特性を理解し、礼法や所作を正しく身につける。 2) 木刀の扱い方を理解し、基本動作を正しく行う。 3) 中段の構えを中心に、構え方・納め方を習得する。 4) 攻めを主体に足さばきを行う。 5) 素振りによって太刀筋や手の内を習得する。 6) 掛け声と足さばきと関連させて打突の基礎を習得する。 7) 正しい間合いから正しく打突する技能を習得する。 8) 安全を意識し打突部位を正確に打突させる。
		ダンス	ダンスの歴史と特性 ジェスチャーで伝える 体育祭でのダンス(コース) 基本的なダンスステップ リズムカルな身体表現 ロープを使ったダンス ダンスの分類	ダンス 基本的な技能を身につけ、特徴をとらえた表現ができる。 マスケームにおける、ひとり一人の役割(重要性)を理解する。 表現したいこと、メッセージを自由に動きで表現できる 雰囲気づくり。

評価方法	柔道 前期、後期とも礼法と柔道の取り組み方、受け身、固め技 剣道 礼法・基本動作(足さばき・素振り) ダンス ジェスチャーでの表現力、体育祭でのダンス、ダンスステップ
------	---

学習方法	男子は前期、柔道(A・C・E)剣道(B・D)とし、後期、柔道(B・D)剣道(A・C・E)とする。女子はAB・CD合同、E単独で実施する。
------	--

注意事項	服装を整え(頭髪・つめ・学校指定の体育着・柔道着を着用)、準備運動・補強運動をしっかりと行う。
------	---

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

平成29年度・中学1年生 技術科年間指導計画表

教科目(単位数)	技術・家庭 技術分野 週1時間
年間目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
使用教科書	教育図書『技術・家庭 技術分野』
使用補助教材	木材加工実習 手作りはし ティッシュボックス 情報教材 タイプクイック

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前	〔技術〕 技術と私たちの生活 〔木材加工分野〕	〔技術〕 構想のたてかたと表し方 ・立体の構想図 ・キャビネット図と等角図 手作りはし	〔技術〕 キャビネット図と等角図の理解 木材の性質の理解 木材は一度加工するとともにもどすことができないことを確認させる
	半 後		・製品の製作(はし) 〔コンピュータ〕 コンピュータのしくみと基本操作 コンピュータの利用 ソフトの利用(図形ソフトの利用)	〔コンピュータ〕 コンピュータ発達の歴史 コンピュータの種類 コンピュータの構成 ローマ字入力 of 習得 入力はローマ字入力を基本とする。
2 学 期	前	〔コンピュータ〕 情報と私たちの生活 〔情報処理〕	〔技術〕 ・製品の設計 ・製品の製作(ティッシュボックス) 〔コンピュータ〕 ・入力練習とインターネットを利用した検索	〔技術〕 木材の特徴の理解 木材加工用道具の特徴と使い方 実習では思わぬ怪我をする事がある。工具や材料の正しい取り扱い方を徹底する。 工具は皆で使うものであり、凶器になりかねない点を徹底する。
	半 後	〔コンピュータ〕 コンピュータの利用	・ソフトの利用(ワープロソフトの利用)	〔コンピュータ〕 インターネットを使った検索の方法とレポートの作成を通し、著作権の問題を生徒と共に考える。情報を発信させる際の責任の重さを徹底させる。
3 学 期		〔技術分野〕 ティッシュボックスの制作 製図 〔コンピュータ〕 コンピュータの利用	〔技術〕 ・作品の製作 ・第三角法の実習的指導 〔コンピュータ〕 ・入力練習とインターネットを利用した検索 ・ソフトの利用(表計算ソフトの利用)	〔技術〕 第三角法の理解 ティッシュボックス)の製作 丈夫な構造を作るための、木材の組み合わせ方を理解させる。 〔コンピュータ〕 表計算ソフトを利用した課題 社会では表計算ソフトは多くの場面で利用されていることを理解させる。

評価方法	<p>〔技術〕</p> <p>第1学期 キャビネット図・等角図の課題テスト はしの評価 第2学期 課題テスト 木材加工品(ティッシュボックス)の確認 第3学期 第三角法の課題テスト 木工作品(ティッシュボックス)の評価</p> <p>〔コンピュータ〕</p> <p>第1学期 コンピュータの構成 タイピングの評価 第2学期 ワープロソフトを利用し、課題レポートの評価 第3学期 表計算ソフトを利用した課題の評価</p>
------	---

学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
------	--------------------

注意事項	コンピュータの取り扱い、実習中のけがなどに注意する
------	---------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて、知識の定着を図る。
-----------------------	----------------------

平成29年度 中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	技術・家庭科 家庭分野(週1時間)
年間目標	家族・家庭とは何かや家族・家庭と社会の関わりを理解させる。住生活の知識を深めるとともに、日常の生活に役立てるようにできる事を目標とする。
使用教科書	教育図書 『技術・家庭 家庭分野』
使用補助教材	被服実習:株式会社 平和『エコ生活推進マイクロファイバークリーナー』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	A 家族・家庭と子どもの成長 第1章 家族と家庭生活	1 家族のことを考えてみよう 2 家庭の生活を考えよう 3 家族とのかかわり 4 家族のかかわりとコミュニケーション	生徒の生活体験を通して家庭生活の意義、家族の結びつきの重要性を知る。家族の一員として、自分ができる家庭の仕事を実践できるようにする。
	後 半	被服実習	縫い方の基本 マイクロファイバークリーナーの製作	手縫いの基本的な縫い方を知り、日常生活で実践的に出来るようにする 手縫いにより集中力を高め、実践力を付ける。
2 学 期	前 半	被服実習	マイクロファイバークリーナーの製作	デザインを考え個性を生かし、完成させる 2学期と同様に継続して技術を習得する
	後 半	第2章 幼児の生活と家族	1 幼児の心身の発達 2 幼児の生活の特徴 3 幼児の生活習慣 4 幼児の遊び 5 幼児の発達と遊び 6 幼児の遊びを支える	自分の幼児期を思い出す。 幼児の心身の発達の特徴について知る。 幼児にとっての遊びの大切さを理解する。
3 学 期		C 衣生活・住生活と自立 第2章 わたしたちの住生活	1 住まいのはたらき 2 家族の生活と住まい 3 安全な住まい方の工夫 4 健康を守る住まい方の工夫	

評価方法	1・定期試験 2・授業態度 3・実習態度 4・提出物 5・小テスト
------	---

学習方法	教科書と授業ノートをよく見て、理解を深める
------	-----------------------

注意事項	被服実習の際に、家庭に持ち帰って課題をすることを禁じる。万が一行った場合は被服実習の点数はなしとする。
------	---

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	教科書及び副教材の精読を通じて、知識の定着を図る。
-----------------------	---------------------------

平成29年度 中学1年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	中学1年 英語(4単位)	
年間目標	Listening	<ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査リスニングパートの英文を理解できる。 ・初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。
	Reading	<ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査過去問題レベルの英文を読むことができる。 ・辞書を使って、単語の意味を調べることができる。 ・初見の英文を読み、内容を大まかに掴むことができる。 ・英語を読むことに対して、抵抗を持たない。
	Speaking	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を音読し、暗唱できる。 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。
	Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをある程度の長さの文で書くことができる。 ・スプリングコンテストで70点以上とることができる。
使用教科書	NEW CROWN 1 English Series NEW EDITION (三省堂)	
使用補助教材	NEW CROWN 1 English Series NEW EDITION 中学必修テキスト(三省堂)、Talk & Talk Book Light 1(正進社)	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	・ Get Ready	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット ・英語の挨拶、単語の読み、数字 ・英文を書くときのルール ・Classroom English 	L: Classroom Englishに反応できる。 L: 100個の単語が聞き取れる。 S: 日常の挨拶や自己紹介ができる。 S: 時間を聞いたり答えたりできる。
		・ Lesson 1 ・ Lesson 2 ・ Let's Talk 1, 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ be動詞(現在)と代名詞(I, you) ・ be動詞(現在)と指示代名詞(this, that) ・ 疑問代名詞What ・ 中学必修テキスト(p4 ~p39) 	R: 本文が読めて暗唱できる。 W: Alphabetが読めて書ける。 50個の単語が読めて書ける。 W: 人やものの紹介が書ける。
1学期	後半	・ Lesson 3 ・ Lesson 4 ・ 発音とつづり ・ Project 1 ・ Let's Talk 3, 4 ・ 英検	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般動詞(平叙・疑問・否定) ・ 名詞(単数形、複数形) / 代名詞 ・ 疑問代名詞(what, where) ・ 数のたずね方(How many?) ・ someとanyの区別 ・ 命令文/Let's(肯定・否定) 	L: 疑問文の要点が聞き取れる。 命令文を聞き即レスチャーできる。 S: I play~/ Do you ~? の表現が使える。 Wh-?文を用いて質問できる。 命令文を用いて指示・激励ができる。 R: 複数形や数のたずね方、命令文の会話の内容を読み取ることができる。 W: 好きなものやことについて文が書ける。 場面に即した命令文が書ける。 英検: 希望受験(準会場)
		・ Let's Talk 5, 6 ・ Spelling Contest	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問詞(who, when, where) ・ 代名詞(目的格) ・ Whose...? ・ 所有代名詞/~'s(のもの) ・ 代名詞(目的格) ・ 一般動詞(3人称単数現在)の平叙・疑問 ・ 否定 ・ 人称代名詞 ・ 可算名詞/不可算名詞 ・ 学力推移調査対策 ・ 中学必修テキスト(p74 ~p107) 	L: Wh疑問文の要点が聞き取れる。 L: 3単現を含む会話を聞いて内容を理解できる。 S: Wh疑問詞や代名詞(目的格)を使って質問できる。 S: 友達のすることについて説明したり、たずねたりできる。 R: 登場人物らしくwh疑問詞や代名詞を含む対話を音読できる。 R: 家族や友達の紹介文を読んで内容が分かる。 W: Spelling Contest : 80/100点以上とれる W : 3単現と複数名詞を区別して書ける。 家族や友達の紹介文を書ける。 英検: 希望受験(本会場)
2学期	前半	・ Lesson 5 ・ Lesson 6 ・ Let's Talk 5, 6 ・ Spelling Contest	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞(can)の平叙・疑問・否定 ・ 現在進行形の平叙・疑問・否定 ・ 現在分詞 ・ 現在形と進行形の違い 	L: 相手の依頼や伝えたいことが聞き取れる。 S: 助動詞canを使って会話を続けられる。 交通手段を聞いて答えられる。
		・ Lesson 7 ・ Lesson 8 ・ Project 2 ・ Let's Talk 7, 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学必修テキスト(p108 ~p133) ・ インタビュー ・ 依頼する・交通手段をたずねる 	R: 雑誌、記事を読んで概要を読み取れる。 W: 場面に即した現在進行形が書ける。
3学期	前半	・ Lesson 9 ・ Let's Read ・ Further Reading 1 ・ Further Reading 2 ・ Project 3 ・ Let's Talk 9 ・ 英検	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般動詞の過去形(規則動詞) ・ 不規則動詞 ・ 過去形の疑問文/Wh-疑問文 ・ 不規則動詞の疑問文 ・ Little Mouse Wants an Apple ・ Japan's Funny Short Stories ・ 中学必修テキスト(p134 ~p157) 	L: 物語を聞いて概要を聞き取ることができる。 L: 長めの文章を聞き、概要が理解できる。 S: 過去に行ったことを聞いたり行ったりできる。 Whyでたずね、理由を答えられる。 自らの意見、主張を言うことができる。 S: 長めの文章を暗唱できる。 R: 過去形の物語、記事を読んで理解できる。 R: 長めの文章を読み、概要が理解できる。 W: 5文以上の英文日記が書ける。 規則動詞、不規則動詞の過去形を区別し、書ける。 W: READの感想を5つの英文で書ける。 英検: 5級全員合格(準会場)
		・ Project 3 ・ Let's Talk 9 ・ 英検 ・ Speech Contest ・ Spelling Contest	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大切なものを紹介する ・ 理由をたずねる・説明する 	R: 大切なものを紹介する R: 理由をたずねる・説明する
評価方法	・ 定期テスト、スプリングコンテスト、課題等の提出物			
学習方法	・ 教科書の本文は暗唱し、書けるまで勉強する。授業用プリントとノート、必修テキストを復習に使う。			
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年に2回(夏季休業、冬季休業後に)に、スプリングコンテストを実施する ・ 英検5級は合格を目標とする。5級を取得しているものは更に上を目指して資格取得に臨むこと。 ・ 授業用プリントはA4サイズのファイルに綴じ、定期的に提出を求める。(課題の評価に入れる) ・ 辞書は英和・和英辞書を一冊用意すること。 			
インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	・ 授業用プリントを埋め、授業担当者に提出する。			